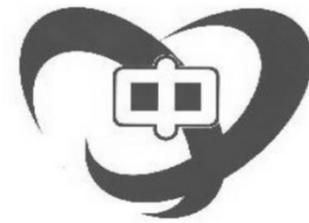


令和6年度 学校評価(後期)

報告書



令和6年12月

伊予市立双海中学校

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目		評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						R6.7月 肯定率
		○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者						4	3	2	1	肯定率	全体肯定率	
1 教育課程・学習指導	・「分かる・できたを実感する授業」「考える授業」「伸びる授業」の実践	①	○授業では、発表、実験、制作等自分の考えをまとめたり、表現したりする活動や体験活動の時間がよくある。 ◎双海中では、授業で自分の考えをまとめたり、表現したりする活動や様々な体験活動を、よく実施している。 □本校では、「表現力」「読解力」の育成のため、各教科や総合的な学習等において、適切な言語活動や体験的活動を実施している。	A	【考察】 全国学力学習状況調査の結果等を踏まえて、全教職員で知識を活用する力や表現力の向上をめざして、授業改善に取り組んだ。そのため、生徒・保護者・教職員ともに肯定率が高い 【改善方策】 今後も話したり書いたりする表現活動を、授業に適切に位置づけながら、より有効な手立てについて研究を進めていきたい。	生徒アンケート	◎	73	27	0	0	100	100	94
			保護者アンケート			◎	29	71	0	0	100	94		
	教職員アンケート	◎	86	14	0	0	100	100						
	・個に応じたきめ細やかな指導や家庭学習の充実による基礎学力の定着と向上	②	○私は、話をしっかり聞いたり、ノートをとったりして、授業にまじめに取り組んでいる。 ◎お父さんは、真面目な学習態度で、授業に取り組んでいる。 □本校では、学習四原則の徹底を図り、基本的な学習習慣の育成に努めており、身に付いている。	A	【考察】 生徒の肯定率が、前回の調査に比べてわずかに減少したものの、ほぼ全員の生徒が、基本的な学習習慣を意識して授業に臨むことができている。 【改善方策】 どの学年の生徒も落ち着いた授業態度で授業中の学習に取り組むことができている。より集中して学習に取り組むことができるように、今後も引き続き学習に向かう態度の指導を継続していく。	生徒アンケート	◎	64	33	4	0	96	97	98
						保護者アンケート	◎	63	31	6	0	94		95
						教職員アンケート	◎	43	57	0	0	100		100
・生徒の学習状況の確実な見取りと目標・指導・評価の一体化	③	○日々の学習内容をある程度理解し、意欲をもって学習している。 ◎お父さんは、授業の内容がある程度理解できていて、意欲を持って学習している。 □自分は、生徒が意欲的に授業に取り組むように工夫し、「分かる・できた授業」、「考える授業」、「伸びる授業」になるよう、授業改善に取り組んでいる。	A	【考察】 肯定率が、前回の調査時から生徒は向上したが、保護者は低下している。生徒の回答を学年別に見ると、2年生の肯定率が低下している。2年生の学習内容は多く、高度化することから、このような結果となったのであろう。 【改善方策】 12月に実施した愛媛県学力診断調査や2学期末テストの結果を踏まえながら、個別に課題を把握した上で、個別指導を指導を充実していく。	生徒アンケート	◎	50	39	10	2	89	92	84	
					保護者アンケート	◎	31	56	13	0	88		95	
					教職員アンケート	◎	71	29	0	0	100		100	
・学び合いによる言語活動や問題解決的な学習の充実	④	○私は、宿題や自主学習ノートにしっかり取り組み、家庭学習の習慣が身に付いている。 ◎お父さんは、宿題や自主学習ノート等、家庭学習の習慣が身に付いている。 □本校では、家庭学習習慣の指導に全校体制で取り組み、その定着を図っている。	B	【考察】 前回と比較して、自身の家庭学習への取組が不十分であると考えている生徒は減少し、肯定率が向上した。家庭でも、保護者の協力が得られている。 【改善方策】 準備物や提出物の忘れ物が多い特定の生徒の状況は変わっておらず、進路指導と併せて、家庭と連絡をとりながら連携していく。	生徒アンケート	○	23	46	29	2	69	88	64	
					保護者アンケート	◎	38	56	6	0	94		74	
					教職員アンケート	◎	43	57	0	0	100		100	
・配慮を要する生徒への全校的な支援及び特別支援教育の推進	⑤	○先生は、日々の授業や質問タイムにおいて、分かりやすく教えてくれている。 ◎双海中では、日々の授業や学習相談等で分かりやすく教えてくれる。 □本校では、学習相談等やICTの活用により、個に応じたきめ細かな指導が行われている。	A	【考察】 生徒の捉え方には多少の変化があった。これは、2つ上の設問への回答ともつながっているが、学習内容が十分身に付いていないことを自分の課題と考える生徒がいるためであろう。 【改善方策】 個別指導を行っているが、小学校の学習内容に遡る必要のある生徒も少なくなく、授業中だけでは不十分と感じることも多い。放課後は部活動があるため、時間を捻出するのが困難である。	生徒アンケート	◎	62	33	6	0	94	96	96	
					保護者アンケート	◎	13	81	0	6	94		94	
					教職員アンケート	◎	83	17	0	0	100		100	
・ICT機器を活用した個別最適な学習指導の充実	⑥	○私は、地域の行事に積極的に参加している。 ◎双海中では、地域の自然や伝統行事等を重視しており、お父さんは地域行事に積極的に参加しようとしている。 □本校では、地域の人材や自然、伝統行事などの教育資源を活用し、生徒は地域行事に積極的に参加しようとしている。 ◇双海中では、地域の人材や自然、文化財、伝統行事等の教育資源が活用され、生徒は地域行事に積極的に参加しようとしている。	A	【考察】 夏休みには伊予市トライアスロン大会が行われ、多くの生徒が有志ボランティアとして参加した。部活動の一環で、吹奏楽部が下灘プラットホームコンサートや公民館祭で演奏をした。様々な形で地域の活動に参加させていただいた。 【改善方策】 2学期に限らず、本年度も様々な地域行事に生徒が参加させていただいた。地域学校協働活動推進員の尽力により、充実した活動となっている。	生徒アンケート	◎	62	29	8	2	90	95	92	
					保護者アンケート	◎	27	73	0	0	100		89	
					教職員アンケート	◎	57	43	0	0	100		100	
					地域有識者アンケート	◎	33	56	11	0	89		96	
学校運営協議会の所見	最近の生徒は、自分で計画帳を書かず、家庭で友人に教えてもらうことが多い。そのため、保護者が宿題や提出物を把握することが難しい。自分で翌日の学習予定を書くように指導してほしい。また、そうすることで、自分でスケジュール管理をする能力が培われると思われる。放課後に空き教室を開放し、地域による学習サポートができるとよい。					学校の対応	全国や県の学力調査において、本校生徒の学力は、県や市の平均正答率を上回る良好な状況である。だが、解答形式が記述式の問題が弱いという課題があるため、今後、思考力や表現力を伸ばしていく取組をする。また、提出物の状況にも改善が必要で、保護者と連携しながら、個に応じた対応をしていく。							

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒54名、保護者16名、地域有識者29名、教職員8名

※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)						R6.7月 肯定率
							4	3	2	1	肯定率	全体肯定率	
2 心の教育	⑦ ・「議論して考えを深める」特別の教科道徳の時間と人権・同和教育の充実	○私は、仲間(先輩・後輩・友達)のことを思いやり、協力して物事をやり遂げようとしている。 ◎お子さんは、他の人への思いやりや、協力して物事をやり遂げようとする心が育っている。 □本校では、互いの思いやりや、協働する心の育成に努めている。	A	【考察】 2学期に行われた諸行事における取組を通して、生徒同士の関係が構築されている。一方で、前回調査では見られなかった「思わない」という回答が、生徒の中に見られることが気掛かりである。 【改善方策】 おおむね、行事や日々の協働的な活動を通じた社会性の育成により、高め合える集団生活が行えている。同時に、集団生活になじまない生徒に対して、粘り強く働きかけていくことも必要である。	生徒アンケート	◎	75	23	0	2	98	99	96
					保護者アンケート	◎	56	44	0	0	100		100
					教職員アンケート	◎	63	38	0	0	100		100
					⑧ ・学校の教育活動全体を通じて行う感動体験による豊かな心と社会性の育成	○私は道徳の時間(心の時間)に真剣に取り組む、自分自身を見つめ直す機会となっている。 ◎双海中では道徳教育に積極的に取り組み、豊かな心が育つよう努めている。 □本校は、道徳の時間を要に様々な場面で道徳性の育成を心掛け、豊かな心を育成している。 ◇双海中では、いろいろな機会をとらえて人権教育や道徳教育など豊かな心の育成に力を入れている。	A	【考察】 生徒、教職員、地域有識者、ともに高い肯定率であり、向上している。しかしながら、前回調査と比べると、生徒の肯定率が低下している。 【改善方策】 愛媛県教育委員会人権教育課指導訪問を受け、それまでに人権教育を充実させてきた。生徒は、人権教育を受けて、現状に敏感になったのかも知れない。今後は、実践力に結びつけられるよう、更に人権教育を推進していきたい。	生徒アンケート	◎	83	14	2
保護者アンケート	◎	47	53	0					0	100	94		
教職員アンケート	◎	50	50	0					0	100	100		
地域有識者アンケート	◎	33	63	4					0	96	100		
⑨ ・生徒の自発的・自治的活動の活性化による仲間づくりとリーダー性の育成	○私は、自分自身を大切にしており、今の自分が好きだ。 ◎お子さんは自分自身を大切にしており、自尊感情が育まれている。 □本校では、一人一人のよさを認め、達成感を味わわせ、生徒の自尊感情の育成に努めている。	A	【考察】 前回の調査と比較して、「そう思う」と全肯定した生徒は増えたが、「どちらかと言えば思わない」「思わない」と答えた生徒が増加した。 【改善方策】 自尊感情の根底には他人からの承認と自分自身の達成感の両方があると考え。そのどちらも満たされるよう、バランスのよい教育課程を工夫していく。	生徒アンケート	○	37	42	15	6	79	93	84	
				保護者アンケート	◎	63	38	0	0	100		100	
				教職員アンケート	◎	63	38	0	0	100		100	
⑩ ・感謝の気持ちを基盤とした挨拶や言動による規律ある生活態度の育成	○私は、他の人の人権を尊重し、人に差別的な態度や言動をとっていない。 ◎お子さんは他の人の人権を尊重し、差別的な態度や言動をとらないようにしている。 □本校は、人権・同和教育の視点に立った指導を随時行い、「人権意識」の涵養に努めている。	A	【考察】 愛媛県教育委員会人権教育課指導訪問に向けて、人権・同和教育を充実させてきた。その成果が結果に表れていると考えられる。 【改善方策】 本年度取り組んできた人権・同和教育の取組を、一過性の者とならないように、今後も更に充実させていく。3年生の人権劇は、保護者の皆さんや地域の方々へのよい啓発の機会と捉えて、今後も継続していきたい。	生徒アンケート	◎	83	17	0	0	100	100	100	
				保護者アンケート	◎	75	25	0	0	100		100	
				教職員アンケート	◎	88	13	0	0	100		100	
学校運営協議会の所見	本校のよさは、小規模校らしく、生徒同士の仲がよく、学年が上がるほど仲のよさやつながりが強くなっていることである。一方で、小学校からの人間関係を引きずっている場合もあり、これは、心の成長の度合いによるものと思われる。生徒の自己肯定感に関して、直感的に自分のよさを感じることができる機会があるといい。				学校の対応	2学期末に行われた人権・同和教育訪問を経て、生徒は、部落差別を自分に近いものとして認識できるようになった。3学期には、ローテーション道徳を実施し、全教職員が道徳教育に関わり、人権・同和教育を核とした心の教育を継続していく。							

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒54名、保護者16名、地域有識者29名、教職員8名

※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)					R6.7月 肯定率	
							4	3	2	1	肯定率		全体肯定率
5 保護者・地域との連携	開かれた学校づくりの推進	⑳	A	【考察】 ホームページや学校便りは、保護者のみならず地域の多くの方々にご覧いただいている。電話連絡や家庭訪問は、機会を捉えて行っているが、頻繁にその機会があるわけではない。 【改善方策】 ホームページについては、できるだけタイムリーな更新を心掛け、学校の現状を多くの方に知っていただく。電話連絡等は、何か問題が起きたときだけに行うのではなく、よかったことも家庭に伝えるようにしたい。	保護者アンケート ◎	31	69	0	0	100	99	100	
					教職員アンケート ◎	75	25	0	0	100		100	
					地域有識者アンケート ◎	56	41	0	4	96		96	
			㉑	A	【考察】 毎年行っている「いりこ販売」では、PTAの地区役員の皆様に多大なご尽力をいただいた。地域によっては、注文数も多く、各戸を回っていただくのもたいへんなご苦労を掛けている。頭の下がる思いである。 【改善方策】 今年度も年間を通して、たくさんのPTAの方々にご協力いただいた。地区によっては生徒数がたいへん少ないところもあり、今後も生徒数が減少していく中で、無理なく活動できるよう体制を考えていく必要がある。	保護者アンケート ◎	25	69	6	0	91	93	91
				教職員アンケート ◎	75	25	0	0	100	100			
			地域有識者アンケート ◎	30	57	9	4	87	96				
		㉒	A	【考察】 学校運営協議会では、建設的な意見をいただき、学校経営の一助とさせていただいている。今後も、様々なお立場からのご意見をいただきたい。 【改善方策】 今後も学校の様子を知っていただけるよう、学校運営協議会の皆様への行事への案内を続けていく。地域学校協働活動をより活発にして、地域の方々の教育への参画の機会を増やしたいが、教職員の多忙さを考えると、新しい取組を導入する余裕がない。	教職員アンケート ◎	63	38	0	0	100	93	100	
			地域有識者アンケート ◎	29	57	14	0	86	90				
	学校運営協議会の所見	多くの企業で賃上げの動きがあるが、一次産業への従事者が多い双海地区で、どれほどの恩恵があるか。今年はみかんが不作で、その影響も考えられるように、各家庭や地域全体の経済的な余裕がどれくらいあるか。そうした社会の動向は、家庭の安定とつながっており、子ども達の精神状況にも反映される。子どもの背後にある家庭を思い描きながら、子どもを見ていかなければならない。コミュニティスクールに関しては、お互いに「何を頼んでいいのかわからない」「何が出来るのか」考えすぎているように思う。来年度は、もっと学校に来る機会、見る機会が増えるといい。											
	学校の対応	保護者の皆様の積極的な協力のおかげで、学校と地域のよい協力関係が築けているので、今後もこれを継続していく。一方で、今年度からのコミュニティスクールの取組について教職員に浸透しておらず、課題が残った。次年度はもっと積極的に取り組みたい。											

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒54名、保護者16名、地域有識者29名、教職員8名

※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均

【評定基準】 A:目標を9割以上達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満の達成

4:そう思う 3:どちらかと言えばそう思う 2:どちらかと言えば思わない 1:思わない ◎肯定率8割以上、○6割～8割、△6割以下

項目	重点目標	質問項目 ○生徒、◎保護者、□教職員、◇地域有識者	評定	学校による考察・改善方策	評価資料	評価	アンケート結果(%)					R6.7月 肯定率
							4	3	2	1	肯定率	
6 研修・ 管理運営	資質・能力の向上、人的・物的・事務管理	⑳	A	【考察】 愛媛県教育委員会人権教育課指導訪問を通して、人権・同和教育の研修が深まった。また、全国学力学習状況調査や愛媛県学力診断調査の結果分析や愛媛県学力向上推進主任研修会で伝達のあったことなどについて、職員会で周知を図った。 【改善方策】 一過性のもとならないように、生徒のための人権・同和教育の研修も推進していく。また、各種学力検査の結果を踏まえて個に応じた指導の充実を図るとともに、今後の教育の動向を見据えながらICT機器活用の在り方についても考えていきたい。	教職員アンケート	◎	50	50	0	0	100	100
		㉑	A	【考察】 日常会話の中でも、校務や指導について情報交換がなされており、性別や経験年数に関わらず、共通理解のもとで対応することができている。 【改善方策】 現在のような風通しのよい職員室の雰囲気、今後も継続させていきたい。今年度も、他の市町では教員の不祥事や交通違反があったが、他人事と思わず、自らの襟元をたやすようにしたい。	教職員アンケート	◎	88	13	0	0	100	100
		㉒	A	【考察】 本校は小規模の学校であるため、担当する校務の数が、大規模校に比べると多くなるため、全教職員が学校運営関わっているという意識がある。 【改善方策】 同僚の活動状況にお互いが気を配るよう意識し、業務に対する負担を軽減したい。また、ICTの活用により、いい意味で楽ができるところは楽をして、教員本来の仕事に意識を集中できるように、長時間労働を改善したい。	教職員アンケート	◎	63	38	0	0	100	100
		㉓	A	【考察】 会計処理においては、事務職員が不在であるため、不安は残るが、複数の目でチェックをして確実な処理を心掛ける。備品についても年に複数回、台帳との照合をしている。 【改善方策】 会計処理については、郡中共同学校事務室と連絡を密にし、適切に行う。振込手数料が、銀行から請求されるようになったが、これまでと変わりなく処理が行えている。	教職員アンケート	◎	75	25	0	0	100	100
		㉔	B	【考察】 おおむねワークライフバランスを意識して勤務することができている。ひと月の超過勤務時間が80時間前後である教職員が、2学期に減少したが、日没時間により生徒の下校時刻が早くなったためである。 【改善方策】 長時間労働が教師としての「やりがい」につながっていることもあり、単純に「長時間労働＝悪」としにくい点もある。生徒と向き合う時間の確保としての働き方改革という意識につなげたい。	教職員アンケート	◎	38	50	13	0	88	88
学校運営協議会の所見		「残業中毒」という言葉が示すように、仕事をして長時間過ごすという状態だけに満足することがある。労働環境の整備・改善により「ノンコンタクトタイム」を実現してほしい。そして生み出した時間で、保護者とコミュニケーションをとることで、円滑に学校業務が進む。				学校の対応		業務に忙殺され、保護者との意思疎通や生徒との対話をする精神的な余裕がなくなると、結局は生徒にそのしわ寄せがいつてしまう。そうならないように、勤務時間を意識した働き方を心掛けたい。				

※1 「よりよい学校づくりのためのアンケート」 回答者数:生徒54名、保護者16名、地域有識者29名、教職員8名

※2 全体肯定率は各アンケートの単純平均